

令和3年7月9日

令和3年度 第1回潜在介護福祉士等再就業支援研修アンケート

オリエンテーション

- 介護福祉の今と昔。DWAT：参加する場合、1日講習を受けることが必須。現在はリモート対応
- 昔と現在では、介護は違うのだと思いました。10年には喀痰吸引研修も介護福祉士がするくらいにならないと思いました。
- DWAT、働く場所の多様化も増え、入所者の方に利用いただけることも知った。
- 自分の資格成立、制度に至るまでや定義について記載いただき誇りを持ち続けられます。

ジョブ・カード

- 就業、退職、入職、振り返り。ジョブ・カードの使い方。ジョブ・カードを1通完成させると、今後役立つ。
- 自分を知る。まとめることが出来ました。
- 自分自身の強み、弱みも再確認できました。
- 自分の振り返りが出来、自分自身のモニタリングが出来、見つめなおす時間でした。

個別相談

- 在宅、施設の支援の違い。コロナワクチン・病院通院支援の状況。働き方・プライベートとの調整。職場見学という方法もあり→その後、一考する。
- 他施設の話や、アドバイスを頂き、自分の自身にもつながりました。
- 実際務めた時に伝えていた方がいいこと、希望施設の希望等も、必ず伝えておく方がいいと教えて頂け、ありがたかったです。
- 自分の思い（重い）を聞いていただけました。有難うございました。言動として記載できることで今の思いを残せると感じました。

介護業務の現状

- EPAの現状、外国人の方と一緒に働くという事。高齢者の住まい。福祉介護業務の働く場所の多様化。
- 色々な働き方がある。介護の楽しさは、仮説を立て、人とのかかわり方で、利用者とのコミュニケーション・生活支援技術を考えることで良くなっていくことがある。
- 3施設だけでなく、サービス付き住まいなどが増え、利用者の方が選ぶことのできる時代に変化をしていることを知りました。
- 高齢者施設のことを学べて良かったと思っています。株式会社が参入にきた話、社会福祉法人の立場についてももう少し個人として学んで行こうと思っています。看取りケアは将来、関わりたいです。
- 「経験と勘を頼りに仕事をしないでください」と会長が話して下さり、専門性の向上へつながると思います。

介護過程

- 介護の意味の今と昔。世話から支援へ。介護福祉士の定義の変更が心身の状況に応じた介護から新しい介護の視点。ICF、ADL と潜在能力の向上へ。
- 介護過程とは、その人その人の生き様を理解し、ICF の考え方も入れ、展開していくことである。
- 三大介護だけでなく、その人らしい生活を続けられる支援と QOL、ADL の向上を一番に心掛けられる介護を介護福祉士全員でしていくことが利用者の幸福につながるのではないかと思う。
- その人らしい生活の実現は自分の頭の中を真っ白にして考えていくことが必要ではないかと思いました。そこから仮説を立てていくことの意味が生まれるのではないかと思います。
- その方の望む生活、自分らしさはその方の人生を把握することで記録に残しながら自分らしさを発見できると考えます（ニーズも必ず含まれます）。情報収集し、アセスメントする楽しさ、計画立案のワクワク感、評価、修正を行う過程が業です。

介護の知識

- 希望と願望の違い→願望がかなうと嬉しい！ 障害者手帳の種類は 3 種類（身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳）。難病、治療法が確立していない。現時点で 362 疾病。福祉機器見学
- 依存とは、消極的自立。希望と願望の違いがあり、願望が聞けるのがいい。
- 利用者様が一人一人個性に合わせ、至高の価値、尊さ、畏敬の念を持った介助者が一人でも多く介護福祉士として誇りを持ち、介護をし、その人らしく過ごせる場所づくり、支えをしていけるよう努めなくてはならない。その他の雑談も初めて見聞きすることばかりで、ありがたかったです。
- 障害者福祉を行いだめた 20 年前は、介護は気持ちで行うものという感じでしたので、最初は介護の概念はなく、制度が支援員となり、措置から契約になるにつれ、介護技術等に対して考えが出てきたように思います。ある意味、当時を思い出せました。
- 座学でより介護の知識、分かりやすい説明でした。様々な利用者さんとのエピソードも思い浮かべながら考えられました。

技術の再習得

- 移乗の方法は 3 つ。立体移乗、座位移乗、リフト以上。スライディングシート体験。リフトを使いこなすと、皮膚の傷も少なくなるというデータあり。高知県は介護者の腰痛対策としてリフトを導入→好評。
- 福祉用具は、利用者主体になる手助けにもなる。リフトを使う事で、事故をするリスクが減る。
- リフトはお風呂介助時によく使っていました。利用者のお尻を後ろに持っていくためにズボンを引っ張っていたことを思い出し、知らないうちに傷つけていたのだと思いました。持ち上げないケアが大切だなと思いました。
- 技術では、腰痛予防対策指針の説明もあり、ノーリフティングケアが広まれば良いと思いました。技術は研修を行っていきたいと思います。

職場体験

- 3 施設それぞれ、大阪の各地にあるが、全て車で施設の前を通過して知っていた施設であった。外からは分からない車ばかりで驚きました。
-

- 高殿苑：机は正方形で移動できる。福祉用具もそろっていて、子供とのかかわりも出来るなど素晴らしいなと思いました。
加賀屋の森：セラピードッグはすごく暖かいと思いました。エマニチュードの導入も素晴らしいと思いました。
隆生福祉会：理念の5つの笑顔は素敵だと思いました。フィンランドとの国際交流はすごいと思いました。
- 3施設とも従業員さんの福利厚生、負担、やりがい等を考え、取り組まれておられ、とても参考になりました。中でも、ラウンジのある高殿苑さんは、利用者の方の生きがい、楽しみ作りを心掛けされていてよかったです。
- 私が暮らしている所から近い場所にある施設で職員に合わせた職場でトライしたくなりました。利用者の行いたいことの実現は大切だしそれに向け利用者を支える職員に目を向けてくれていることは職員としても、これから働こうと思っているものとしてとても嬉しく元気を貰えました。
- 施設の方からのプレゼンではそれぞれの特徴が分かりやすかったと思います。

VRでの看取りの体験

- 凄い内容。VR体験はとても刺激的で、家族の方もするべきだと思った。
- VRでの体験はこれからの仕事に活かせると思いました。
- レビー小体のVRはすごくビックリしました。否定せず楽しめたらと思います。死についてVR、家族さんの看取り時間を作れ、その人らしい詩を迎えてもらえることの幸せを常に考えることを大切にしていけたらと思います。
- VRではACPについて考える時間が持てました。また、認知症の体験では、傾聴共感受容が大切だと再認識できました。すごい疑似体験です！有難うございました。またお願いしたいと思います。

再就業に向けた心構え・振り返り

- 5日間、たくさん学びました。有難うございました。とにかく明るく楽しく学びました。
- 振り返り、学習させてもらったことで軽減することができました。「微かな変化もとらえる。今日もいつもの1日であるために。」微かな変化も捉えるためには日々勉強だなと思いました。
- 全く自信のかけらを持っていませんでしたが、復習体験もできたことで、少し取り戻せたように思います。まだまだ無知ではありますが、知識を入れつつ、まずは、職場体験に行かせてもらいたいです。無料で、たくさん勉強させて頂け、本当に感謝です。ありがとうございました。
- 復職に向けて学べて学びなおせてよかったです。今後、センターの協力を得て復職していきたいと思っています。本当にありがとうございました。
- 介護福祉士は深い思いやりや気付きが求められます。それらを担える人材になり、人が人を元気にする職種であるが多くの人の生き方、人生を左右する責任がある職種です。研修参加することで再確認が出来、気持ちがりセットします。また研修参加したいと思っています。参加できてよかったです。ありがとうございました。

付録アンケート結果グラフ

